

- ◆ 調査の目的
なりわいとしての漁業の魅力、漁業者の就業に対する満足度を指標として定量化するとともに、その影響要因と経年変化を明らかにし就業環境の改善を行う場合などの参考とするため、地域の漁業をけん引している岩手県漁業士※を対象に意識調査を行うもの。
※ 本県の漁業者のうち優れた経営や模範的な活動などで知事の認定を受けた者。
- ◆ 調査方法 アンケート調査（郵送法）
- ◆ 調査対象 岩手県漁業士 99人（平成28年9月20日現在の名簿登録者）
- ◆ 調査時期 平成28年10～11月
- ◆ 調査項目 「漁業担い手満足度」およびその要因を分析するための40の個別項目
- ◆ 回収結果 有効回収率71.7%（有効回収数71人）

- ◆ 岩手県漁業担い手育成ビジョン（平成28～31年度）との関係
平成28年3月に策定した「岩手県漁業担い手育成ビジョン（平成28～31年度）」では、なりわいとしての漁業の魅力「漁業担い手満足度」※として指標化し、基本目標を設定しています。

指標	基準年(H27)	目標年(H31)
漁業担い手満足度	0.71点	1.00点

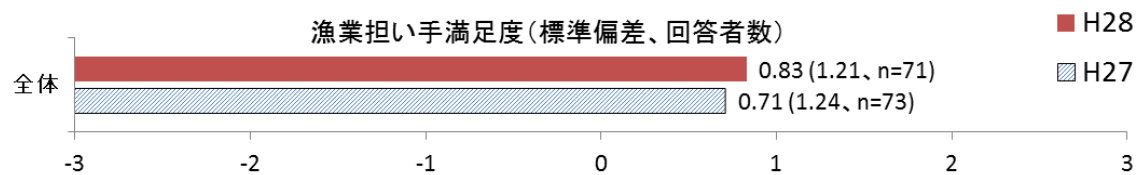
※ 「漁業担い手満足度」とは、漁業者が就業に対して感じている満足を数値化したもので、算出方法は次のとおりです。

$$\text{漁業担い手満足度（平均点）} = \frac{(\text{「非常に満足」} \times 3 \text{点}) + (\text{「満足」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + (\text{「ふつう」} \times 0 \text{点}) + (\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})) + (\text{「不満」} \times (-2 \text{点})) + (\text{「非常に不満」} \times (-3 \text{点}))}{(\text{全回答者数})}$$

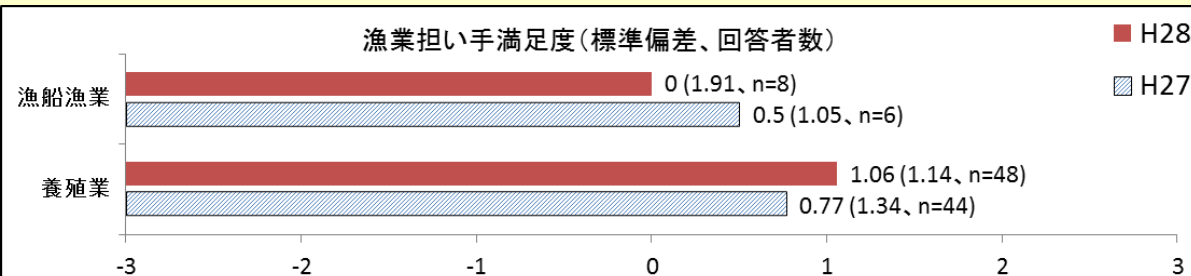
この算出方法では、平均点は-3.00点～3.00点の範囲となり、0.00点が中間点となります。

1 「漁業担い手満足度」 （平成27年度との比較）

- ◆ 全体
「漁業担い手満足度」が向上

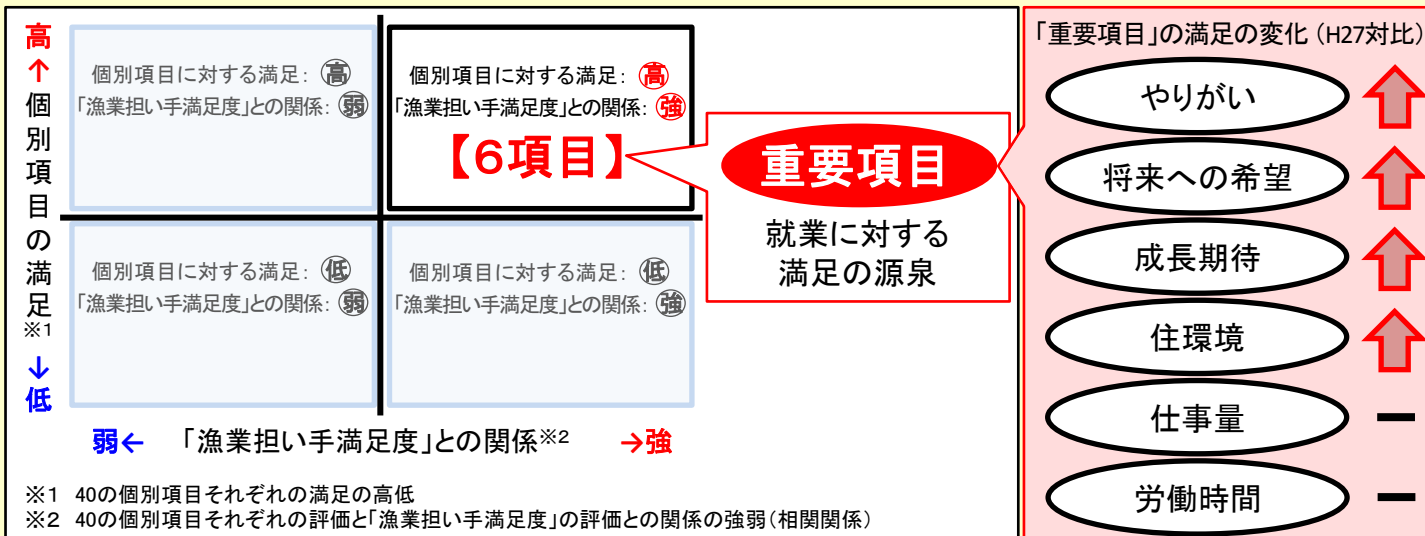


- ◆ 類型別（主な漁業種類別）
「養殖業」が向上 ⇔ 「漁船漁業」が低下



2 満足度構造分析

- ◆ 回答者全体の「漁業担い手満足度」に関する要因
「漁業担い手満足度」に関する要因としてどのような項目があるか、分析しました。
・ 分析の結果、「やりがい」、「将来への希望」、「成長期待」、「住環境」、「仕事量」、「労働時間」の6つの個別項目（以下「重要項目」という。）に対する満足が高い回答者ほど、「漁業担い手満足度」も高いことがわかりました。
⇒ 「重要項目」は、「漁業担い手満足度」に強く関係する要因と考えられます。また、平成27年度の調査でも同様の傾向が認められています。
- ◆ 重要項目に係る平成27年度調査結果との比較
・ 「やりがい」、「将来への希望」、「成長期待」、「住環境」に対する満足が向上しています。
⇒ 今回の調査で回答者全体の「漁業担い手満足度」が向上した理由は、この4つの重要項目に対する満足の向上であり、なりわいや暮らしの再建が進んだ事を反映したと考えられます。



- ◆ 漁業種類別の分析
漁船漁業と養殖業では、「収入水準（個別項目の1つ）」に対する満足と「漁業担い手満足度」との関係に異なる傾向が認められました。
・ 「漁船漁業」では、「収入水準」に対する満足と「漁業担い手満足度」との関係が強くなりました。
⇒ この理由としては、「収入水準」に対する満足が低下したことです。
・ 「養殖業」では、「収入水準」に対する満足と「漁業担い手満足度」との関係が弱くなりました。
⇒ この理由としては、養殖業者は「収入水準」に満足しており、それ以外の要因である「設備・機器」等が就業満足に影響しています。

	収入水準	
	個別項目に対する満足	「漁業担い手満足度」との関係
漁船漁業	↓ : 低下	→ : 強く
養殖業	↑ : 向上	← : 弱く

県は、漁業協同組合、漁業関係団体、市町村などの関係者と連携しながら、本調査の結果を参考に、なりわいとしての漁業の魅力の向上を目指します。また、関係者と連携して魅力の向上に取り組みながら、本調査を定期的に実施し、その取組の効果を把握・評価していきます。